

報道関係 各位

清涼飲料水容器のリサイクルに関する消費者意識調査 2026

4人に3人が「資源を大事にしたい」。直近1年間で意向高まる
一方、自動販売機横リサイクルボックスへの異物投入は3割
水平リサイクルである「ボトル to ボトル」の推進には分別と異物削減が鍵

一般社団法人全国清涼飲料連合会（東京都千代田区、会長：井辻秀剛、以下全清飲）は、10月20日「リサイクルの日」に向けて、「清涼飲料水容器のリサイクルに関する消費者意識調査2026」を実施いたしました。2026年9月4日～9月7日の4日間、全国の15歳～69歳の男女（人口構成比に準拠した1,333サンプル）のうち、外出先でペットボトル飲料を飲用する人を対象に実施し、1,037名の有効サンプルを集計しました。（調査協力機関：株式会社インテージリサーチ）。

調査詳細は、以下「全国清涼飲料連合会 清涼飲料水容器のリサイクルに関する消費者意識調査2026（詳細版）」報告書をご参照ください。

▶PDFリンク

【消費者調査結果サマリー】

- 「資源を大事にしたい」と回答した人は76.6%、そのうち直近1年間で資源に対する意識が高まった人は約4割
- 自宅でペットボトルのキャップ・ラベルを外す人は82.0%、外出先では屋内39.7%、屋外34.7%と場所によって分別状況に差がある状況
- 自販機横のリサイクルボックスの認知率は73.3%と向上するも、リサイクルボックスに「過去1年間で異物を入れたことがある」と回答した人は約3割。「入れたことがあるもの」で最も多かったのは、「プラカップ」

近年、環境問題への関心に加え、物価上昇や資源価格の高騰、資源不足への不安などを背景に、資源を大切にしたいという意識が高まっています。日本のペットボトルのリサイクル率は85.1%（24年度実績）と高い一方で、今回の調査ではペットボトルの分別は自宅では8割以上、屋内・屋外では3～4割にとどまるなど排出場所により差があることが分かりました。また、自販機横に設置しているリサイクルボックスに過去1年間異物を入れたことがある人は3割にのぼりました。

ペットボトルはさまざまなものにリサイクルされていますが、中でも再びペットボトルとして再生する水平リサイクル「ボトル to ボトル」は資源の有効活用につながるリサイクルであり、清涼飲料業界では2030年「ボトル to ボトル」比率50%を目標に掲げております。ペットボトルのリサイクルを推進するためには、ペットボトルを分けてきれいにし出していただくことや自販機横リサイクルボックスの異物削減など生活者の皆様のご協力が欠かせません。

清涼飲料業界では、ペットボトルの分別促進や自販機横リサイクルボックスの適正利用について、ステークホルダーと連携して啓発を行っています。

《資源に対する意識》

p.4-p.5

● 資源に対する意識は

- 資源を大事にしようと思う76.6%
- 直近 1 年間で資源を大事にする意識が「高まった」32.8%
- 直近 1 年間で資源を大事にする意識が高まった理由：「環境問題への関心が高まったため」47.9%、「物価上昇により節約意識、資源の有効活用意識が高まったため」46.5%、「資源価格の高騰を知ったため」44.7%
- 資源を大事にしようと思うと回答した層の中で、直近 1 年間で資源を大事にする意識が「高まった」41.6%

《ペットボトルの分別・排出に関する実態・意識》

p.6-p.13

【キャップ・ラベルの分別・排出】

● 飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルは外しているか

- 自宅：「キャップ・ラベルともに外している」82.0%、「キャップ・ラベルともに外していない」7.7%
- オフィスや学校などの屋内：「キャップ・ラベルともに外している」39.7%、「キャップ・ラベルともに外していない」45.9%
- 街中や公園などの屋外：「キャップ・ラベルともに外している」34.7%、「キャップ・ラベルともに外していない」52.0%

● キャップやラベルを外さない理由は

- 自宅：「手間がかかり面倒だから」41.6%、「キャップやラベルを外さなくてよいと思っている」29.5%
- オフィスや学校などの屋内：「外したキャップやラベルをどうするか、わからないから」43.9%、「キャップやラベルは外さなくてよいと思っている」33.4%
- 街中や公園などの屋外：「外したキャップやラベルをどうするか、わからないから」47.5%、「キャップやラベルは外さなくてよいと思っている」29.7%

● ペットボトルのキャップやラベルがリサイクルされるなら、「個別に集める」キャップは 70.6%、ラベルは 61.7%

● 自宅で飲んだあとのペットボトルの排出に関する自治体ルールを「知らない」12.1%、男女ともに若年層高く

【自販機横のリサイクルボックス認知】

● 自動販売機横のボックスはリサイクルボックスであることを「知っている」73.3%

● 1 年間で自動販売機横のリサイクルボックスに、清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器以外を「入れたことがある」29.9%

- 入れたことがあるもの：「プラカップ」が 31.6%、「レジ袋」18.7%、「お酒類の容器」16.8%
- 入れた理由：「ほかにいれる場所がなかった」44.2%、「家まで持ち帰りたくなかった」18.4%

● 自動販売機横のリサイクルボックスに投入した清涼飲料容器の購入場所は、「リサイクルボックスが設置された自動販売機」45.4%、「スーパー・コンビニエンスストアなどの店舗」35.7%

● 自動販売機横のリサイクルボックスに、清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器以外を入れてはいけないことを「知っていた」78.1%

● リサイクルボックスに、中身を残したまま飲料容器を「入れたことがある」11.8%

- 飲み残しが入っているペットボトルは、リサイクルにとって「異物」であることを「知っていた」70.0%

● 公共のごみ箱やリサイクルボックスは「必要だと思う」88.6%

- ごみ箱やリサイクルボックスがあった方がよいと思う場所：「駅」82.7%、「公共機関」が 75.8%

● 新機能の自動販売機横のリサイクルボックスを「知っていた」54.2%

【ペットボトルのリサイクル認知】

- ペットボトルのリサイクルに関して知っていることは
 - ・ ペットボトルが資源として、リサイクルされていること : 91.1%
 - ・ 日本のペットボトルがほとんどリサイクルされていること : 62.6%
 - ・ ペットボトルが再びペットボトルになる「ボトル to ボトル」 : 49.4%
 - ・ ペットボトルは単一素材であるためリサイクルに適していること : 41.2%

【リサイクル・資源循環に対する意識】

- リサイクル・資源循環に関して取り組みたいことは
 - ・ 外出先（オフィスや学校などの屋内）で、飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルを外すことに取り組みたい : 70.8%
 - ・ 外出先（街中や公園などの屋外）で、飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルを外すことに取り組みたい : 68.5%
 - ・ 外出先（街中や公園などの屋外）で、リサイクルボックスがないときは、飲み終わったペットボトルを自宅へ持ち帰ることに取り組みたい : 73.3%

＜本リリースに関する報道関係者のお問い合わせ先＞

一般社団法人全国清涼飲料連合会（全清飲） 担当：広報部 稲野

TEL : 03-6260-9272 E-mail : ineno@j-sda.or.jp

調査結果

全国の15歳～69歳の男女で、外出先でペットボトル飲料を飲用する人1,037名（全回答者）に、ペットボトル飲料の飲用実態について質問しました。

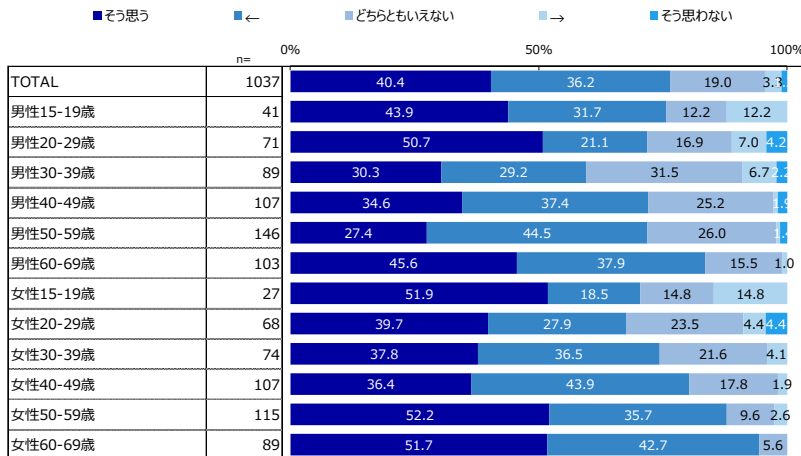
《資源に対する意識》

● 資源に対する意識は

✓ 資源を大事にしようと「そう思う」（5段階 TOP2）と回答した人は、**76.6%**

全回答者（1,037 名）に、あなたは、資源を大事にしようと思うか聞いたところ、「そう思う」と回答した人は 40.4%、「←（そう思うより）」と回答した人は 36.2%で、「そう思う（TOP2 項目の合計）」は 76.6%でした。約 4 人に 3 人が資源を大事にしようと思っていることになります。

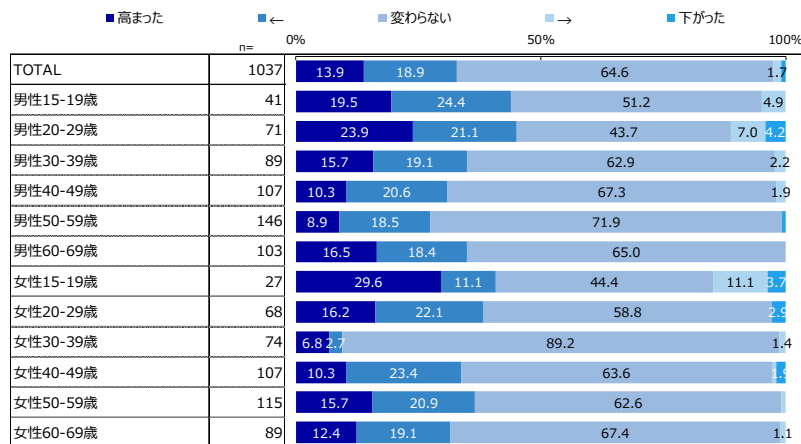
性年代別にみると、「そう思う（TOP2 項目の合計）」は、女性 60-69 歳が 94.4%、女性 50-59 歳が 87.9%で、特に意識が高いことが分かりました。



非表示：1%未満

✓ 直近 1 年間で資源を大事にする意識が「高まった」（5段階 TOP2）と回答した人は、**32.8%**

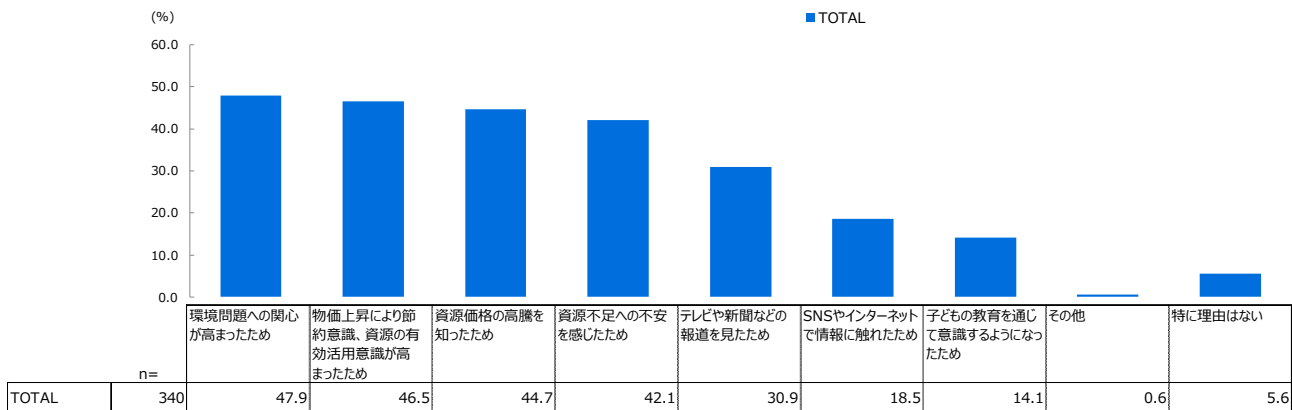
全回答者（1,037 名）にこの 1 年間で資源を大事にする意識に変化はあるか聞いたところ、「高まった」と回答した人は 13.9%、「←（高まったより）」と回答した人は 18.9%で、「高まった（TOP2 項目の合計）」は 32.8%でした。3 割以上の人が直近 1 年間で資源に対する意識が高まっています。



非表示：1%未満

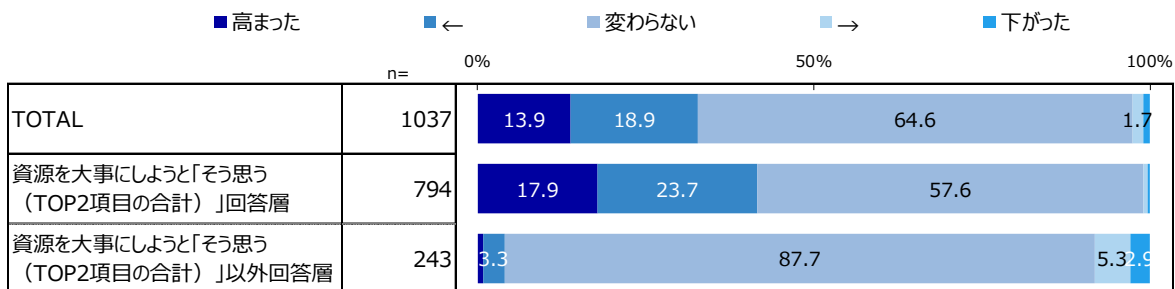
✓ **直近 1 年間で資源を大事にする意識が高まった理由：「環境問題への関心が高まったため」47.9%、「物価上昇により節約意識、資源の有効活用意識が高まったため」46.5%、「資源価格の高騰を知ったため」44.7%**

直近 1 年間で資源に対する意識が「高まった（TOP2 項目の合計）」と回答した人（340 名）に、資源を大事にする意識が高まった理由・背景を聞いたところ、「環境問題への関心が高まったため」と回答した人は 47.9%、「物価上昇により節約意識、資源の有効活用意識が高まったため」46.5%、「資源価格の高騰を知ったため」44.7%でした。環境問題への関心や物価上昇、資源価格の高騰など、近年の社会・経済状況が、資源を大事にする意識に影響を与えていると考えられます。



✓ **資源を大事にしようと思うと回答した層の中で、直近 1 年間で資源を大事にする意識が「高まった」41.6%**

資源を大事にしようと思うと「そう思う（TOP2 項目の合計）」と回答した人（794 名）の中で、直近 1 年間で資源に対する意識が「高まった（TOP2 項目の合計）」と回答した人は 41.6%でした。資源を大事にしようと思う人の約 4 割が直近 1 年間で資源に対する意識が高まっており、このことから、近年の社会・経済状況が、資源を大事にする意識に影響を与えていることがうかがえます。



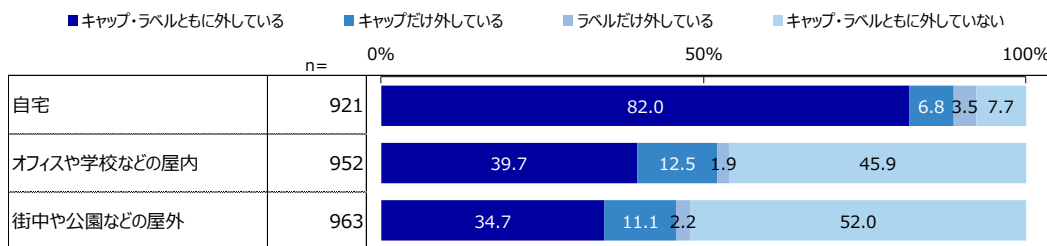
《ペットボトルの分別・排出に関する実態・意識》

【キャップ・ラベルの分別・排出】

● 飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルは外している？

	キャップ・ラベルともに外している	キャップ・ラベルともに外していない
・自宅	<u>82.0%</u>	<u>7.7%</u>
・オフィスや学校などの屋内	<u>39.7%</u>	<u>45.9%</u>
・街中や公園などの屋外	<u>34.7%</u>	<u>52.0%</u>

自宅でペットボトル飲料を飲用する人（921 名）に、自宅で飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルは外すか聞いたところ、「キャップ・ラベルともに外している」と回答した人は 82.0%で、8 割以上の方が自宅で分別をしていることがわかりました。一方で、外出先でペットボトル飲料を飲用する人（屋内 952 名・屋外 963 名）に、外出先（屋内・屋外）で飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルは外すか聞いたところ、「キャップ・ラベルともに外している」は屋内 39.7%、屋外 34.7%にとどまりました。また、「キャップ・ラベルともに外していない」は屋内 45.9%、屋外 52.0%で、屋外ではキャップ・ラベルともに外していない人が半数を超えており、自宅と外出先とで分別の差が生じていることがわかりました。

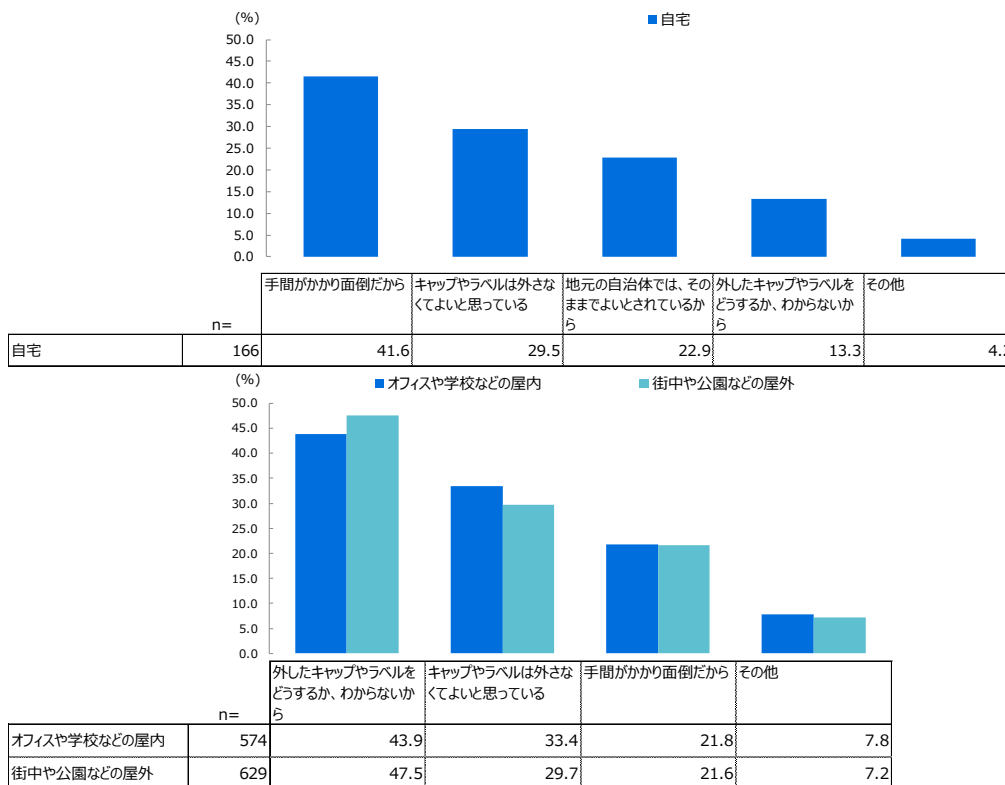


非表示：1%未満

● キャップやラベルを外さない理由は？

・自宅	手間がかかり面倒だから	41.6%
	キャップやラベルを外さなくてよいと思っている	29.5%
・オフィスや学校などの屋内	外したキャップやラベルをどうするか、わからないから	43.9%
	キャップやラベルは外さなくてよいと思っている	33.4%
・街中や公園などの屋外	外したキャップやラベルをどうするか、わからないから	47.5%
	キャップやラベルは外さなくてよいと思っている	29.7%

ペットボトルのキャップやラベルを外さない人（自宅 166 名、屋内 574 名、屋外 629 名）にペットボトルのキャップやラベルを外さない理由を聞いたところ、自宅では、「手間がかかり面倒だから」と回答した人が 41.6%、「キャップやラベルを外さなくてよいと思っている」29.5%で多く、外出先（屋内）では、「外したキャップやラベルをどうするか、わからないから」43.9%、「キャップやラベルは外さなくてよいと思っている」33.4%、外出先（屋外）では、「外したキャップやラベルをどうするか、わからないから」47.5%、「キャップやラベルは外さなくてよいと思っている」29.7%で多いという結果になりました。



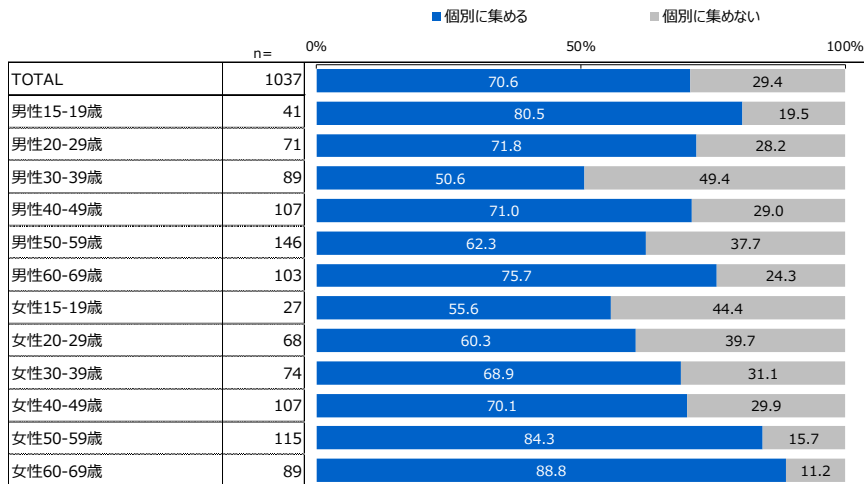
● ペットボトルのキャップやラベルがリサイクルされるなら、個別に集める？

✓ 「キャップを個別に集める」70.6%、「ラベルを個別に集める」は 61.7%

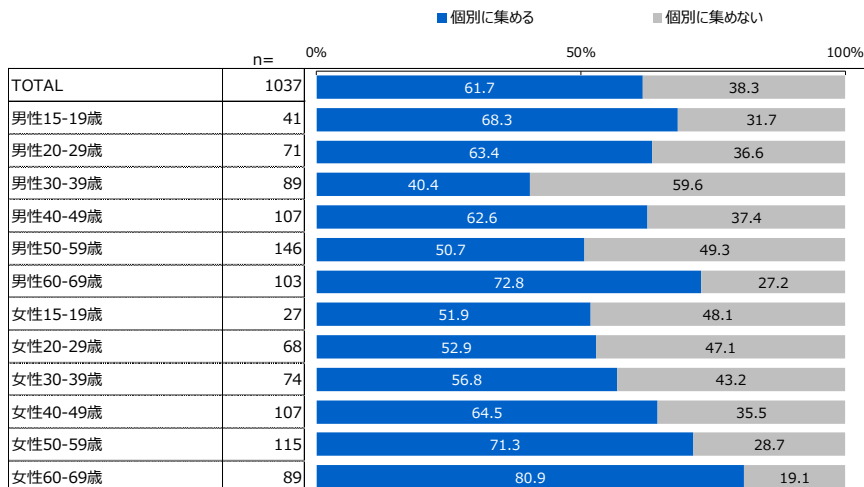
全回答者（1,037名）に、ペットボトルのキャップがリサイクルされるなら、個別に集めるかどうか聞いたところ、「個別に集める」と回答した人は 70.6%でした。また、ペットボトルのラベルがリサイクルされるなら、個別に集めるかどうか聞いたところ、「個別に集める」と回答した人は 61.7%でした。過半数の人は、キャップやラベルをリサイクルにまわすことができるなら、個別に集めてリサイクルに協力したいと考えているようです。

性年代別にみると、キャップ・ラベルともに女性は年代が高くなるにつれ、「個別に集める」の割合が高くなる傾向がありました。

<キャップ>



<ラベル>

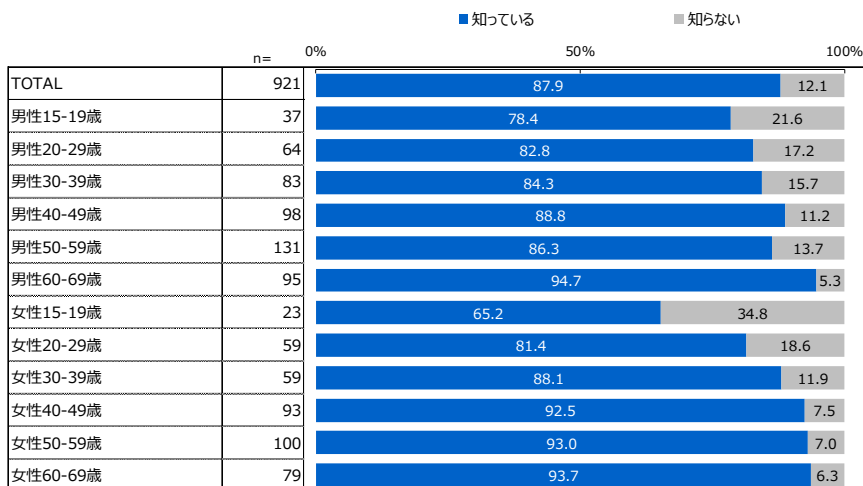


● 自宅からのペットボトル排出に関する自治体のルール知っている？

✓ 「知っている」87.9%

自宅でペットボトル飲料を飲用する人（921 名）に、自宅で飲んだあとのペットボトルの出し方について、お住まいの自治体のルールを知っているか聞いたところ、「知っている」と回答した人は、87.9%で、8 割以上の人自治体のルールを知っていることになります。

性年代別にみると、「知っている」は、男性・女性ともに若年層（15-19 歳／20-29 歳）が他の年代と比べて低い傾向がありました。



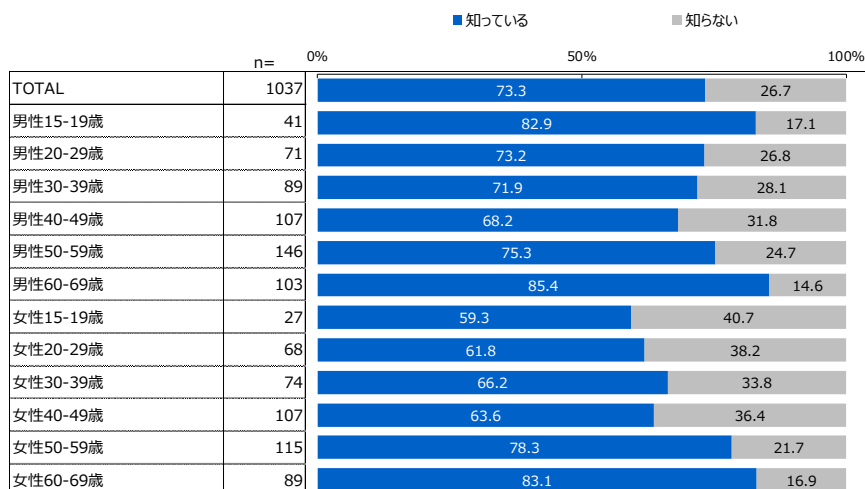
【自販機横のリサイクルボックス認知】

● 自動販売機横のボックスはリサイクルボックスであることを知っている？

✓ 「知っている」73.3%

全回答者（1,037名）に、自動販売機横のボックスはごみ箱ではなく、清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器を回収するためのリサイクルボックスであることを知っているか聞いたところ、「知っている」と回答した人は73.3%でした。昨年度（2025年度）の同設問で「知っている」と回答した人は、71.8%でしたので、1.5ポイント認知率が向上しました。

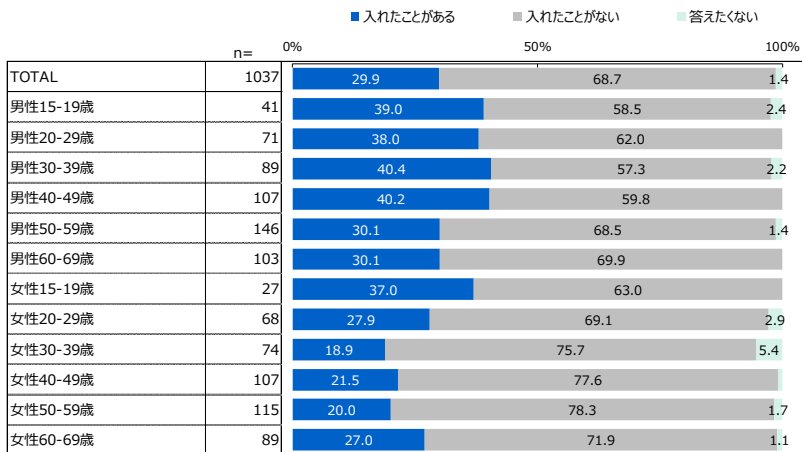
性年代別にみると、「知っている」と回答した男性60-69歳は85.4%で、特に認知率が高いことが分かりました。



● 1年間で自動販売機横のリサイクルボックスに、清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器以外を入れたことがある？

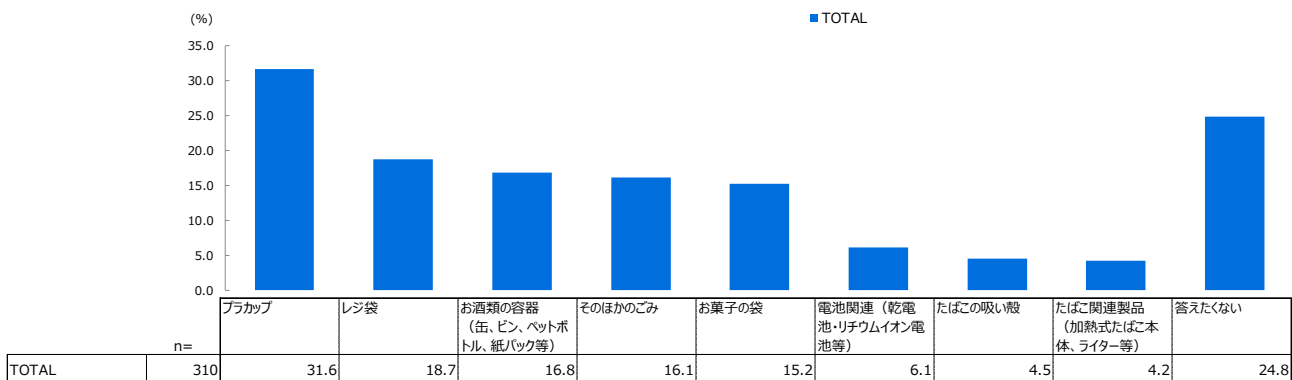
- ✓ 「入れたことがある」29.9%
- ✓ 入れたことがあるもの：「プラカップ」が 31.6%、「レジ袋」18.7%、「お酒類の容器」16.8%
- ✓ 入れた理由：「ほかにいれる場所がなかった」44.2%、「家まで持ち帰りたくなかった」18.4%

全回答者（1,037 名）に、過去 1 年間で自動販売機横のリサイクルボックスに、清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器以外を入れたことがあるか聞いたところ、「入れたことがある」と回答した人は、29.9%でした。約 3 割の人が、1 年以内に自動販売機横のリサイクルボックスに、清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器以外を入れた経験があるという結果になりました。性年代別にみると、「入れたことがない」は、女性 50-59 歳は 78.3%で、特に入れたことがない人の割合が多い傾向にありました。

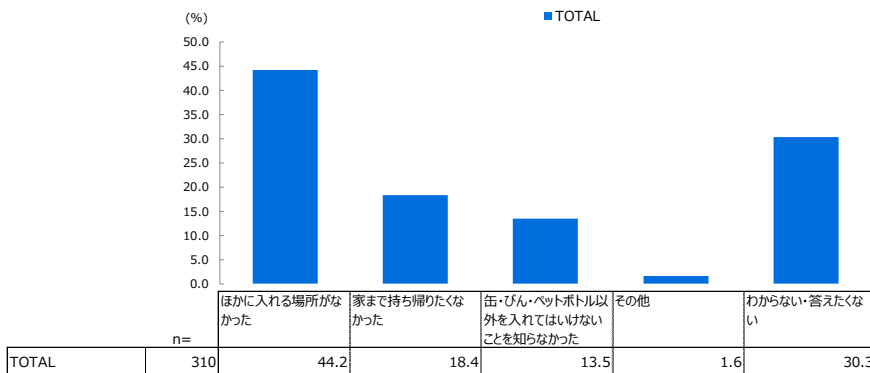


非表示：1%未満

また、入れたことがあると回答した人（310 名）に、自動販売機横のリサイクルボックスに、清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器以外で入れたことがあるものは何か聞いたところ、「プラカップ」が、31.6%で最も多く、「レジ袋」18.7%、「お酒類の容器（缶、ビン、ペットボトル、紙パック等）」16.8%という結果でした。



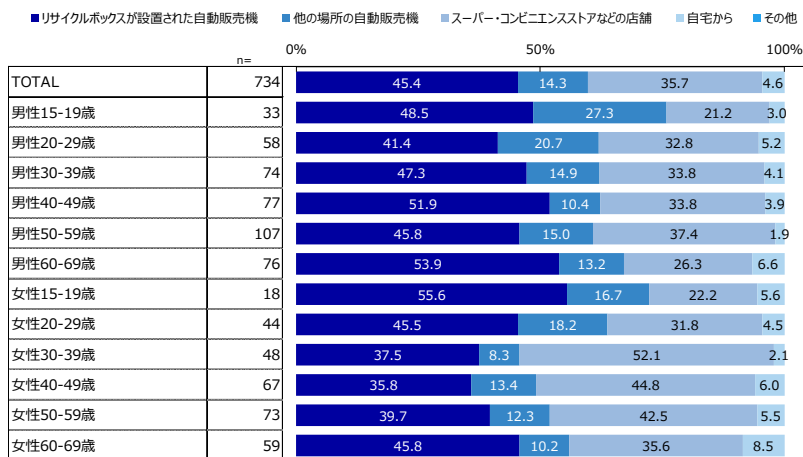
さらに、入れたことがあると回答した人（310 名）に、自動販売機横のリサイクルボックスに、清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器以外のものを投入した理由を聞いたところ、「ほかに入れる場所がなかった」が 44.2%、「家まで持ち帰りたくなかった」が 18.4%、「缶・びん・ペットボトル以外を投入してはいけないことを知らなかった」が 13.5%という結果でした。



● 自動販売機横のリサイクルボックスに投入した清涼飲料容器の購入場所について

✓ 「リサイクルボックスが設置された自動販売機」45.4%、「スーパー・コンビニエンスストアなどの店舗」35.7%

性年代別にみると、「スーパー・コンビニエンスストアなどの店舗」は、女性 30-39 歳（52.1%）、「他の場所の自動販売機」は、男性 15-19 歳（27.3%）が他と比べて高くなっている。



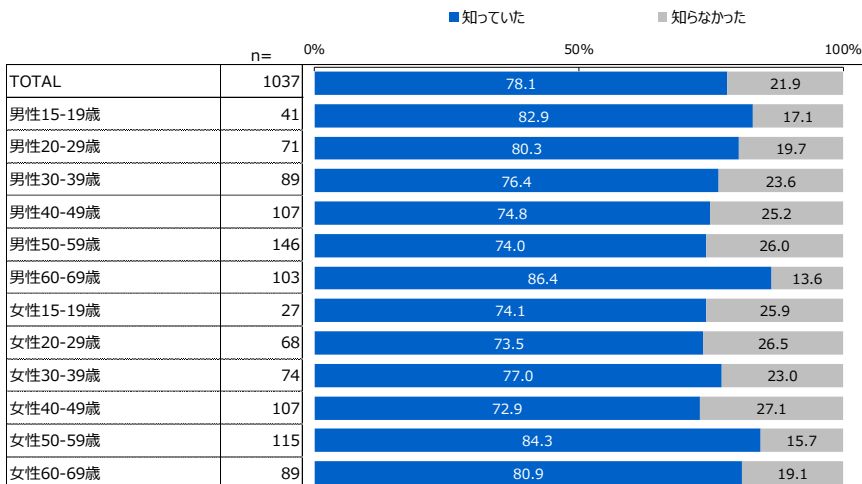
非表示：1%未満

● 自動販売機横のリサイクルボックスに、清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器以外を入れてはいけないことを知っている？

✓ 「知っていた」78.1%

全回答者（1,037 名）に、自動販売機横のリサイクルボックスに清涼飲料水の缶・びん・ペットボトル容器以外を入れてはいけないと知っているか聞いたところ、「知っていた」と回答した人が、78.1%でした。

性年代別にみると、「知っていた」と回答した人は、男性・女性ともに全年代で 70%を超えていましたが、その中でも、男性 60-69 歳が 86.4%で、特に認知率が高いことが分かりました。



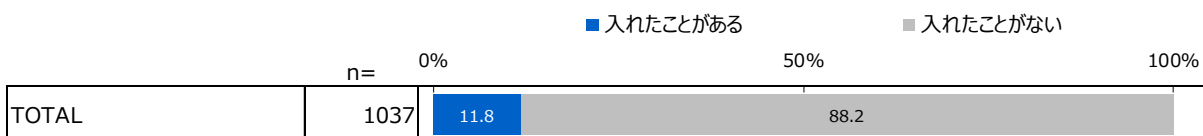
● リサイクルボックスに、中身を残したまま飲料容器を入れたことある？

✓ 「入れたことがある」11.8%

✓ 飲み残しが入っているペットボトルは、リサイクルにとって「異物」であることを「知っていた」70.0%

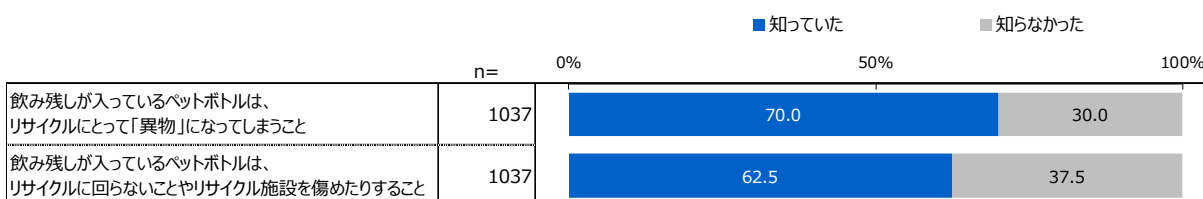
✓ 飲み残しが入っているペットボトルは、リサイクルに回らないことやリサイクル施設を傷めたりすることを「知っていた」62.5%

全回答者（1,037 名）に、リサイクルボックスに飲料容器を入れる際、中身を残したまま（飲み残し）入れたことがあるか聞いたところ、「入れたことがある」と回答した人が、11.8%でした。



また、全回答者（1,037 名）に、飲み残しが入っているペットボトルは、リサイクルにとって「異物」になってしまうことを知っているか聞いたところ、「知っていた」と回答した人は 70.0%でした。

さらに、飲み残しが入っているペットボトルは、リサイクルに回らないことやリサイクル施設を傷めたりすることを知っているか聞いたところ、「知っていた」と回答した人は、62.5%でした。

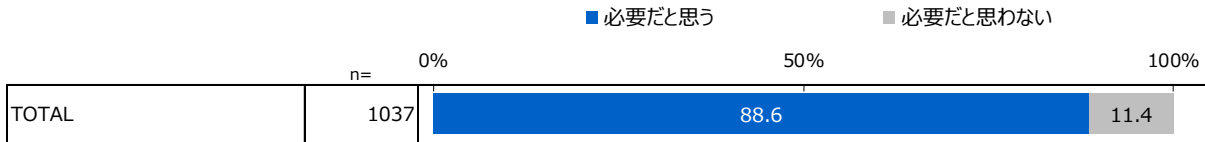


● 公共のごみ箱やリサイクルボックスは必要だと思う？

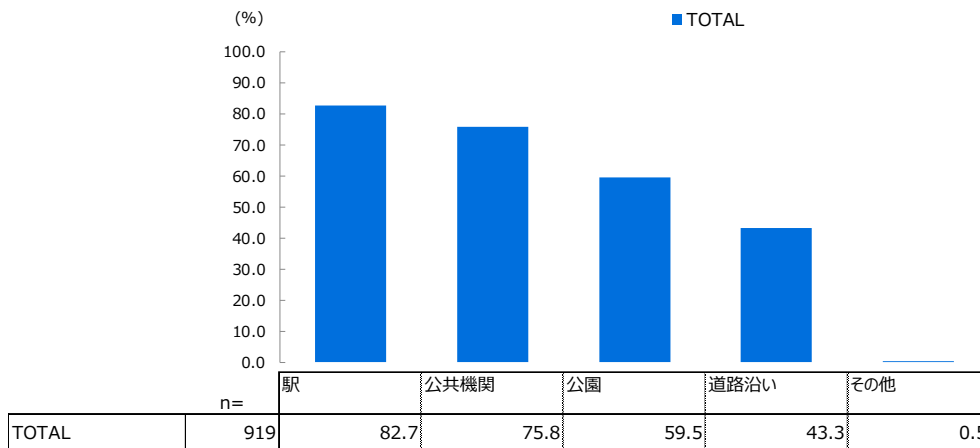
✓ 「必要だと思う」88.6%

✓ ごみ箱やリサイクルボックスがあった方がよいと思う場所：「駅」82.7%、「公共機関」75.8%、「公園」59.5%

全回答者（1,037 名）に、自動販売機横のリサイクルボックス以外に、公共のごみ箱やリサイクルボックスは必要だと思うか聞いたところ、「必要だと思う」と回答した人が 88.6%で、9 割近くの人が必要と感じていました。



また、公共のごみ箱やリサイクルボックスは必要だと思うと答えた人（919 名）に、公共のごみ箱やリサイクルボックスがあった方がよいと思う場所はどこか聞いたところ、「駅」（82.7%）が最も高く、「公共機関」75.8%、「公園」59.5%で続く結果になりました。

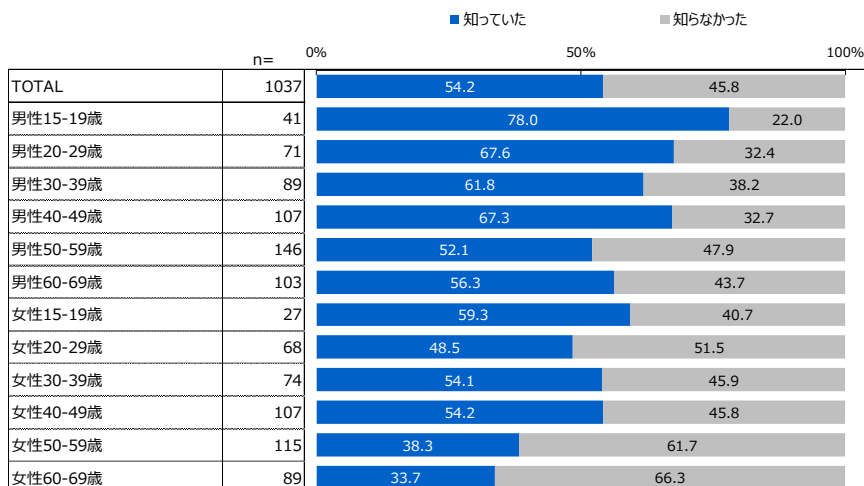


● 新機能の自動販売機横のリサイクルボックスを知っていた？

✓ 「知っていた」54.2%

全回答者（1,037 名）に、新機能の自動販売機横リサイクルボックスを知っていたか聞いたところ、「知っていた」と回答した人が 54.2%で、半数を超えました。

性年代別に見ると、「知っていた」と回答した人は、男性 15-19 歳が 78.0%で特に認知率が高く、一方で、女性 60-69 歳は 33.7%で低いことが分かりました。



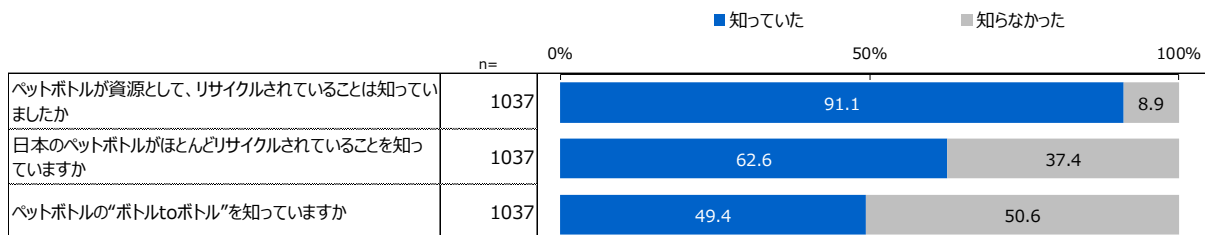
《ペットボトルのリサイクル認知・リサイクル・資源循環に対する意識》

【ペットボトルのリサイクル認知】

● ペットボトルのリサイクルに関して知っていた？

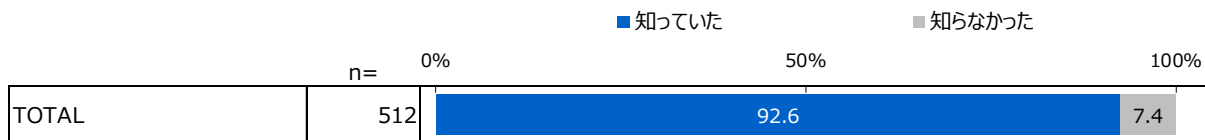
- ✓ ペットボトルが資源として、リサイクルされていることを「知っていた」 91.1%
- ✓ 日本のペットボトルがほとんどリサイクルされていることを「知っていた」 62.6%
- ✓ ペットボトルが再びペットボトルになる「ボトル to ボトル」を「知っていた」49.4%

全回答者（1,037 名）に、ペットボトルのリサイクルについて聞いたところ、ペットボトルが資源としてリサイクルされていることを「知っていた」と回答した人は、91.1%で 9 割以上の人認知していました。また、日本のペットボトルがほとんどリサイクルされていることを「知っていた」と回答した人は 62.6%でした。一方で、ペットボトルが再びペットボトルになる「ボトル to ボトル」を「知っていた」と回答した人は 49.4%で、半数を下回る結果になりました。



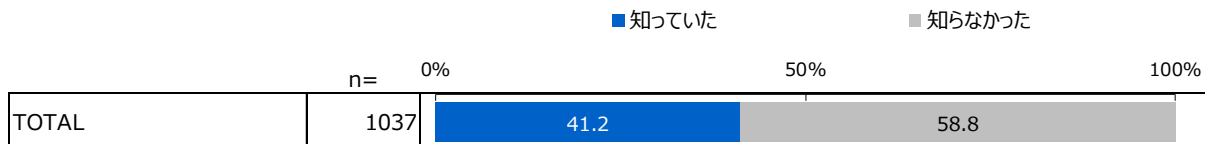
✓ 「ボトル to ボトル」が資源の有効利用につながることを「知っていた」92.6%

ボトル to ボトルを知っていたと回答した人（512 名）に、『ボトル to ボトル』は、資源の有効利用につながることを知っていたか聞いたところ、「知っていた」と回答した人が、92.6%で、ボトル to ボトルを知っている人のほとんどが、ボトル to ボトルが資源の有効利用につながることを認知していることが分かりました。



✓ ペットボトルは単一素材であるためリサイクルに適していることを「知っていた」41.2%

全回答者（1,037 名）に、ペットボトルはポリエチレンテレフタレートという単一素材でできており、そのためリサイクルに適していることを知っていたか聞いたところ、「知っていた」と回答した人は、41.2%でした。



【リサイクル・資源循環に対する意識】

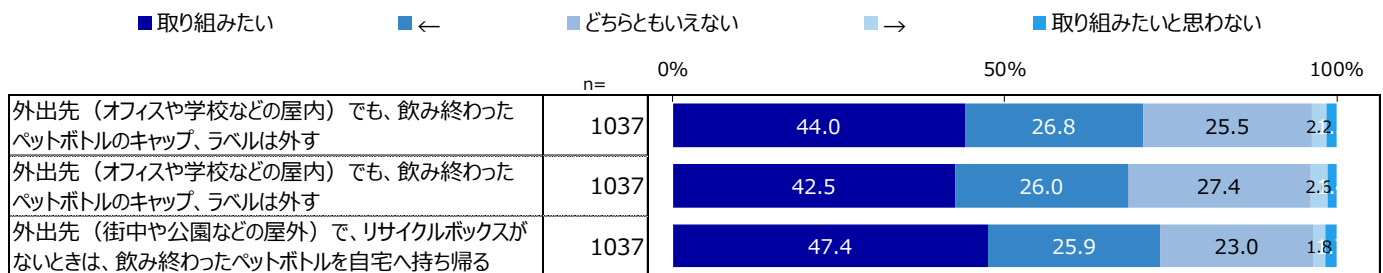
● リサイクル・資源循環に関して取り組みたい？

- ✓ 外出先（オフィスや学校などの屋内）で、飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルを外すことに「取り組みたい」70.8%
- ✓ 外出先（街中や公園などの屋外）で、飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルを外すことに「取り組みたい」68.5%
- ✓ 外出先（街中や公園などの屋外）で、リサイクルボックスがないときは、飲み終わったペットボトルを自宅へ持ち帰ることに「取り組みたい」73.3%

全回答者（1,037 名）に、ペットボトルのリサイクルに関する取り組み意向を聞いたところ、

- ・ 外出先（オフィスや学校などの屋内）で、飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルを外すことに「取り組みたい（TOP2 項目の合計）」と回答した人は 70.8%
- ・ 外出先（街中や公園などの屋外）で、飲み終わったペットボトルのキャップ、ラベルを外すことに「取り組みたい（TOP2 項目の合計）」と回答した人は 68.5%
- ・ 外出先（街中や公園などの屋外）で、リサイクルボックスがないときは、飲み終わったペットボトルを自宅へ持ち帰ることに「取り組みたい（TOP2 項目の合計）」と回答した人は 73.3%

いずれの項目も 7 割程度の人が取り組む意欲を持っていることが分かりました。



非表示：1%未満

《調査概要》

- ◆ 調査タイトル : 清涼飲料水に関する消費者意識調査2026
- ◆ 調査対象 : 株式会社インテージサーチのインターネットモニター会員を母集団とする全国の15歳～69歳の男女で、外出先でペットボトル飲料を飲用する人
- ◆ 調査期間 : 2026年9月4日～9月7日
- ◆ 調査方法 : インターネット調査
- ◆ 調査地域 : 全国
- ◆ 有効回答数 : 1,037サンプル

(内訳)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	41	71	89	107	146	103	557
女性	27	68	74	107	115	89	480

- ◆ 実施機関 : 株式会社インテージサーチ

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容を転載される際は
「全国清涼飲料連合会調べ」と付記のうえ
ご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

■■本リリースに関する報道関係者のお問い合わせ先■■

一般社団法人全国清涼飲料連合会（全清飲） 担当：広報部 稲野

TEL : 03-6260-9272 E-mail : ineno@j-sda.or.jp

■■組織概要■■

- 代表者名 : 会長 井辻 秀剛
- 設立 : 1955年4月
- 所在地 : 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2丁目9番2号 PMO 神田岩本町2階
- ホームページ : <http://www.j-sda.or.jp/>